



Yonago East Weekly

「自分にチャレンジ！自分に奉仕！そして、ロータリーを楽しもう！」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/小谷維夫 ●幹事/永島清孝 ●会報/足立博俊

会員数85名

今週のお祝い

夫人誕生日祝: 4日 足立博俊君 6日 野坂裕一君
 18日 牛込淳彦君 19日 木下博夫君
 25日 永島正道君 南葉健一君

会長挨拶

皆さまお帰りなさい今日の例会は2週間ぶりになります。先週の13日(水)は5RCの合同例会の予定でしたが、米子RCの勝部会長の突然の訃報により急遽中止になりました。米子RCでは、実施するかどうかずいぶん考えられ、杉原ガバナー補佐を通じて、他のクラブに意向を聞かれたそうです。当クラブでは、「淡々とされてはいかがでしょう」ということをお伝えしましたが、全体的に米子RCにお任せします。ということになり、最終的に中止が決まりました。次年度において、米子RCが責任を持って担当するという事です。私も訃報を聞いたときには、本当にびっくり致しました。昨年、会長研修とか地区大会とかでよくご一緒していましたが、勝部会長は背が高いし、颯爽と倉敷の町を歩かれるととても絵になるダンディーな方でした。それと、タイガースのジュリーの歌が好きで、ジュリーの歌を本当に楽しく歌っていらっやいました。勝部会長自身もまさかここで倒れるとは思ってもいなかったことであろうと思います。この突然の訃報により、5RCの合同例会は中止になりましたが、その代わりとして、当クラブの例会を来週実施することになりましたのでよろしくお願いいたします。

それと、この2週間の行事として、先週の土、日で2012~13年度、青少年交換プログラム中四国3地区合同のオリエンテーションが倉敷でありました。ウィリアム君が少し日本語を話せるようになり、喜んで行って来たものと思っています。また、17日には次年度の地区夢計画合同セミナーが津山市で開催され、当クラブからは、木美副会長、長棟 副幹事、

梅田次期ロータリー財団理事が参加しました。小谷年度は2月24日(日)に作文コンテストの表彰式がありますが、それで、大体大きな行事は終わります。ということで、来週27日は普通どおり例会を致しますので、どうかお帰りいただきたいと思ひます。ありがとうございました。

幹事報告

1. 2/27例会 (2/13 5RC合同例会中止分振替)
2. 2/16~17 中四国3地区合同オリエンテーション (倉敷シーサイドホテル) 小土井会員、ウィリアム君出席
3. 2/17 地区夢計画合同セミナー(津山国際ホテル) 木美君、長棟君、梅田君出席
4. 4/14 第1・2グループ合同IM開催のご案内 (倉吉RCホスト) 倉吉未来中心
5. 地区関係費(後期分)振込のお礼状(G事務所より)
6. 2013-14 青少年交換委員会、IA委員会 委員委嘱状と承諾書 (G・E事務所より)

次回プログラム

- 2/27 「PM2.5とは？その予防と対策」
 荒川圭三会員
- 3/6 「ロータリーの友」紹介
 「私の職業」 南葉健一会員



Peace Through service

奉仕を通じて平和を

＜ プログラム ＞

「年女放談③」

多林美智子 会員



米子報知機の多林美智子です。よろしくお願い致します。年女放談ということでしたので、今までの巳年に私が何をしていたかを少しお話させていただきます。昭和40年の48年前の巳年に米子の駅前にある塩町で生まれました。その年は、東京オリンピックの次の年で秋篠宮様がお生まれになったり、長嶋茂雄さんがご結婚された年なんだそうです。小さい頃は、家の前が駄菓子屋さんだったので、毎日、母に5円玉を握らせてもらっては、せっせと買いに行っていました。駄菓子は安いものばかりなので、5円で充分だったのですが、近所の空き地にたまに来る紙芝居さんの水あめは、水あめだけなら5円でも、それをせんべいで挟んでもらうと、10円か20円にアップしてしまうので買えず、いつも、友達が自慢そうに食べているのを、水あめをこね回しながら羨ましく見ていたのを思い出します。学校の方も家の近所です。通学も体を鍛えるには不十分で、とても軟弱な子に育ちました。

そして、12歳の時ですが、この年に父が会社を立ち上げまして、学校が半ドン、土曜日の昼ご飯は、小僧寿しを買ってもらって事務所で食べていたのを覚えています。若い社員のお兄さんに勉強を教わってもらっていたりもしました。今、考えると、せつかくの休憩時間に勉強を教わるなんて、その社員さんかもしれないことがあったらうに、迷惑をかけたなと反省をしています。

次の24歳の時は、米子報知機に入社して2年目で、バブルの頃でしたので、肩パットが入ったスーツを着込み、前髪はトサカを上げ、派手な服装で会社に行っていました。私の仕事は、消防署に提出する書類をつくることで、最初は複写の用紙に手書きだったのですが、ワープロで作るようになり、あっという間にパソコンの時代になりました。

次の36歳は、名前だけの取締役についた頃です。考えがまだ従業員よりだったもので、先代の社長には「週休2日にしろー」とか「給料を上げろー」とか、我がままばかり発言して過ごしてしまい、それも反省しています。

そして、今年の巳年です。昨年の暮れから代表取締役になりましたゆえ、毎日決断を迫られ、責任も負わされ、日々、心休まることなく過ごしております。会社に入社してからずっと、責任もなく、自分の仕事だけこなしていればお給料をもらえていた楽しい年月がありました分、これからは会社を背負って立つ、険しい道が続いていくと思います。ただお陰さまで、幸せなことに、こんな未熟な私の相談にのってくださったり助言を下さる方々がいてくださいます。このロータリークラブの中にもたくさんいらっしゃいます。なので、きつとつらいことも悲しいことも乗り越えるに違いありません。先輩の皆様、引き続き、頼りない後輩を叱咤激励下さいますようお願いいたします。ありがとうございました。

「銀行信用格付について」

杉本 真吾 会員



私は大学を卒業してから山陰合同銀行に勤務したことがあります。その際、企業さんとお付き合いしたこと、そして、実は、経営研究会という勉強会にも所属してまして、そこで何か話してほしいという依頼があり、考えてみたことをまとめましたのでお話させていただきます。今後、アベノミクス効果で、金利は上げて行くものと思います。ということは、融資の利率も上がっていきだろうと考えました。これからは、銀行として企業を「銀行信用格付」という尺度でみていくことが一層強まっていくものと思います。この銀行信用格付の評価の方法ですが、これは、今も昔も「決算書」で決まるということです。決算書で80%は決まると言われています。

その第一評価ですが、ポイントが4つあります。1つは安全性です。これは流動比率によって決まってきます。流動比率とは、手元に現金がどれくらいあるかということです。もう一つ私が重視していたのが自己資本比率です。自己資本比率が高ければ高いほど、銀行の信用は増すわけです。次に収益性についてです。これは、売上高経常利益率です。なかなか難しいですが、8%が目安になり、8%あれば、優良企業を言えます。成長性につきましては、売上高がどのように推移しているかをみてい

ます。と同時に経常利益の推移もみていきます。最後は、債務返済能力です。これはキャッシュフローがいくらあるかをみていきます。

次に第二次評価です。これが残り20%の部分になります。一つは、経営者の資質になるかと思えます。そして、大事になってきますのが、1年間の経営計画です。数値的な部分と人材教育などが入っている経営計画は見ごたえのあるものになります。それと数字には表れにくいですが、販売力です。企業は30年が寿命と言われていますが、何百年も続いている会社は、それなりの理由があるからで、これはとても信用度の高いものになります。第三次評価になりますと、長い会社に多いのですが、資産の含み益になります。土地をいつ購入したのかとか、オーナーが金持ちであるかどうかとか、過去の返済状況などをみていきます。

このような評価を経て、分類ということになっていきますが、分類は5つに分類されます。1つは正常先です。正常先とは、当期の利益が黒字であることと、累積損失がないという会社です。日本の会社の70～80%が赤字だと言われていまして、この正常先となる会社は少ないです。2番目は要注意先です。これは、当期利益が赤字である。累積損失がある。融資の返済が1ヶ月以上延滞している。債務超過である。となると、要注意先に分類されます。この要注意先になっている会社は、今の日本では、半分以上ではないかと思っています。3番目の破綻懸念先になると息が短いです。破綻懸念先とは、二期連続債務超過かつ融資の返済が1ヶ月以上延滞している。あるいは、融資の返済が6ヶ月以上延滞している会社を言います。次に4番目の実質破綻先です。これは、二期連続債務超過かつ融資の返済が6ヶ月以上延滞もしくは、当期利益が赤字かつ融資の返済が6ヶ月以上延滞になっている会社です。そして、5番目が破綻先です。これは、倒産、清算、会社整理、手形交換の取引停止等を言います。この対策としてですが、基本的に銀行は決算書の内容しか見てくれません。決算書を黒字にしていくしかないと思えます。多くの中小企業は正常先と要注意先の境界線上にあると思っていますが、その中に、人為的な努力によって、要注意先から正常先へ評価を上げることは可能であると思っています。その対策とは、銀行受けのする決算書を作ることです。もう一つは、決算書に経営計画書を添付して持っていくことです。また、たとえ赤字であっても、業績の経緯について詳細に説明することは大事であると思えます。数字に表れない自社の長所をアピールすることも重要です。

それから、少なくとも、4半期ごとの決算書を作成し、銀行を訪問して報告することも重要です。それと社長借入金を資本に組み入れることです。最後になりますが、要注意先になりますと、銀行から新たにお金を引っ張るのは難しいです。返済期日に返済額と同じ貸付を受ける「コロガシ貸付」は単なる延命治療であり危険です。石にかじりついてでも黒字化を目指すことが重要だと思っております。ありがとうございました。

2/24(日) 第11回米子市中学生作文コンテスト表彰式をホテルサンルート米子にて開催しました。



今年度のテーマ『仲間』～真の仲間・友人ってなに？～

【 最優秀賞 】

かけがえのない 宝物 角 直樹 君
(米子市立後藤ヶ丘中学校)

【 優秀賞 】

私の側で笑ってくれる人 末 菫 千晶 さん
(米子市立弓ヶ浜中学校)
みんなでつないだひとつのタスキ 森 海斗 君
(米子市立湊山中学校)



【 入選 】 10編
【 佳作 】 20編